



連載 レッスンのお悩み、一緒に考えます！

聞いて！まるみえ先生

ほこあほこピアノ教室主宰 中西美江

今回のお悩みは…

とても幼い生徒さんの レッスン

お悩み内容

最近、生徒の低年齢化が進んでおり、私の教室にも2、3歳の入会問い合わせが入るようになったのですが、このような小さい子を教えたことがなく、お受けするべきか迷っています。よろしければアドバイスをお願いいたします。
(A. M先生)

私の教室でも、近年2歳未満の方から「ピアノレッスン」の体験レッスンの申し込みを頂くことが増えてきました。

まずレッスンをお受けする前に考えておかなければならないことがあります。それは、「**幼い年齢の子どもさんに接する数少ない大人として、どう接するか？**」です。

私自身は、「寛大な心で接し、できることを褒める」ことにとどまらず、音楽を通して生徒さん一人ひとりの心身ともに健全な成長を共に喜び合える関係を築きたいと考えています。そのために、どのようなアプローチが必要なのか、そして講師である自分に何ができるのかを常に考えることが大切だと思っています。

そのためにも、教室へお問い合わせがあった時は、「**なぜこの教室を選んだのか？**」を聞かれると良いと思います。

自分が何を見込まれたのか、何を得られると思われたのか、など、生徒さん側のニーズを知ることとはとても大切です。先生は不安に感じておられるかもしれませんが、保護者さまに「**この先生なら任せられる**」と思われたキッカケが、先生が幼い年齢の方々にレッスンできることなのではないでしょうか？

2～3歳児さんの発達段階に合った レッスンとは？

2～3歳児さんは、「**集中できる時間が短い**」「**模倣が中心**」「**身体を使った動き**」など、学べることの特徴がはっきりしています。そこで、

★ **ひとつひとつのレッスン項目を5分程度にまとめておく**（視覚重視・聴覚重視・動作など、色んなアプローチを5分程度にまとめておきましょう）

★ **最初と最後のレッスン項目は決めておく**

（オン・オフの切り替えをつけることでレッスンの習慣化を促します）

など、あらかじめ準備しておきましょう。

「できた」は細かく刻む

小さい「できた」を積み重ねることで、「やってみようかな」が生まれます。この年齢では最初から達成感だけを求めるのではなく、「**すぐできた！**」「**できるって嬉しい！**」を体験してもらえようアプローチを心がけましょう。

「イヤイヤ」を受け入れる

気分が乗らない時は無理にしない。私はこれを鉄則にしています。

「やらない！イヤ！」の意思表示はとっても大切な成長プロセスです。それを、「もう月謝払っているからやりなさい！」「30分のレッスン時間だからやりなさい！」は成長段階から考えると非常に良くないと考えます。

私はいつも「お母さん、イヤは当たり前、まだこの時期はそれを言うのは『わがまま』の時期ではありません。『自分がやりたいことをやりたい分だけやる』。この満足が次の満足を生みます。お月謝はレッスンができた時間分だけで良いから」とお話ししています。

この時期の生徒さんには、「**音楽を通じて、生徒さんの心身ともに健やかな成長を見守る**」ことが何より大切だと考えます。これからも幼い年齢の方々に「音楽を通じて自分が大事にしたいこと・求められていること」を、しっかり伝えていけるように、丁寧に向き合っていきましょう！